ネイルプリンター開発で共同研究を開始

ネイルカラー分野におけるパーソナライズ提案を強化

コーセー　カシオ

コーセーは、カシオ計算機と協業し、ネイルプリンターに関する共同開発研究を開始する。まずは12月に銀座にオープンする体験型新コンセプトストア「Ｍａｉｓｏｎ ＫＯＳＥ（メゾン コーセー）」にカシオ計算機製のプロトタイプのネイルプリンターを設置し、実証実験を行う。

今後は、カシオ計算機のプリンティング技術をはじめとしたデジタル技術力や製品開発力と、コーセーの効果効能といった機能性と感性が融合された高い付加価値のあるモノづくりを融合させ、ネイルプリンターを通じ、新しいネイル体験やさらなる付加価値とサービスを模索、研究していく。同時に、プリントする際に塗布するネイルカラーの開発やカウンセリングなどに取り組んできた。12月に銀座にオープンする「Ｍａｉｓｏｎ ＫＯＳＥ（メゾン コーセー）」では、このネイルプリンターを設置するほかにも、コーセーグループのブランドを横断したアイテム配置やカウンセリング、施術サービスの提供を行い、顧客一人ひとりのニーズに合った提案を強化していく。

カシオ計算機との協業を通じ、美容領域にとどまることなく可能性を追求することで、生活者の多様なニーズに応えるとともに、ＱＯＬの向上などにより社会に貢献していく。

ドランクエレファントの資生堂買収手続きを完了

資生堂は11月7日、アメリカ地域本社「Ｓｈｉｓｅｉｄｏ Ａｍｅｒｉｃａｓ Ｃｏｒｐｏｒａｔｉｏｎ」（本社＝米国、デラウェア州）を通じて、「ＤｒｕｎｋＥｌｅｐｈａｎｔ Ｈｏｌｄｉｎｇｓ，ＬＬＣ（ドランクエレファント）」（本社＝米国デラウェア州）の買収手続きを完了した。

この買収により資生堂グループは、世界をリードする米国のクリーン市場において先駆者としてトップクラスのプレゼンスを有することになった。プレステージ・スキンケアのポートフォリオを強化し、米州事業の収益基盤を強化するとともに、ミレニアルやＧｅｎｅｒａｔｉｏｎ Ｚと呼ばれる若年層を含む幅広い顧客の価値観の変化を捉えることで、米国市場を攻略していく。さらに、資生堂の経営資源を活かして、アジアを含むグローバル市場における将来的な展開を行っていく。

（禁無断転載）©Ⓡ
本紙の全部または一部を無断で複写複製（コピー）することは、堅く禁じられております。
本紙からの複写を希望される場合は、出版者著作権管理機構（JCOPY）（03-3513-6969）まで必ずご連絡下さい。

The Voice

株式会社 進洋
代表取締役社長
石井 聖一 氏

独創的で高付加価値の化粧品用自動包装フィルム開発に注力

石井氏は大学卒業後、西友ストアーでの4年間の勤務を経て、父が創業した進洋へと入社し、1996年に社長に就任した。

1953年に創業した進洋は、1955年に日本初のミニパックフィルム自動包装機を開発した企業と提携し、当初は医薬品の錠剤や粉末を封入する自動包装用フィルムの販売をメインとしていた。

その後、調味液やスープなどの食品用ミニパックフィルムの加工・販売がメインとなり、1990年代初頭からは化粧品用ミニパックフィルムも手掛けるようになった。

石井氏が社長に就任した当時は、事業のメインだった食品用フィルムがコモディティ化による価格競争に陥っていた時代で、「単に注文を受けて注文を出すだけの仕事では液体自動包装フィルムの専門商社としての存在意義がない」と考えた石井氏は事業の軸足を化粧品用へとシフトし、独創的で新規性がある付加価値の高い化粧品の自動包装用フィルム開発に注力してきた。

「『実験大好きカンパニー』を掲げる進洋だからこそ、競合他社が真似できないような面倒で技術的に難しいと断られた案件にも柔軟に対応している」

今年10月29日～11月1日に幕張メッセで開催されたＪＡＰＡＮ ＰＡＣＫ２０１９では、液体ミニパウチ用フィルムの新提案として、アルミを使わない環境にやさしい透明蒸着フィルムを採用し、アルミ箔不使用でも酸素と水蒸気の透過度がアルミ箔と同等レベルを実現した「エコバリア（ＳＷ・ＳＨ）」を紹介した。

「アルミ箔のフィルムはこれまで金属探知機が使えなかったが、エコバリアＳＷタイプでは使えるため、異物混入リスクが軽減できる。環境に配慮した脱アルミフィルムはこのほか、表面に紙を採用したものも提案している。こうした当社のモノづくりを支えているのは提携工場の方々であり、今後はさらに関係性を強固にし、1人でも多くのお客様の要望に応えられる研究開発を進めていく」（之）